

地域で繋ぐ

「サードプレイス」としての地方空き公共施設の可能性

CY15011 岡廻由貴子

指導教員 前田 英寿 (担当教員 山代 悟)

1. はじめに

1-1 研究背景

都市の中で職場や学校、家庭などの人間関係の問題からストレス症状、うつ病、自殺、過労死など様々な問題が増加し社会問題となっている。そのような社会においては複数のコミュニティを持つことのできるサードプレイスという考え方は有効である。一方都心から近くとも過疎化による合併によって公共施設の重複、老朽化、空き公共施設などの問題が生じている地域が多数ある。

1-2 研究目的

本設計では都市近郊の地方地域にもう一つのコミュニティを持つことで都市住民に一つの答を与え、地方のストックをサードプレイスとして利用する可能性を明らかにすることを目的とする。この中で南房総市という首都圏から近い過疎地域を対象とし、もう一つのコミュニティの姿について考える。

2. 実態調査

2-1 サードプレイスと定義

サードプレイスとはレイ・オルデンバーグが提唱した一つの地域の中で家、職場・学校の間にあるコミュニティライフのアンカーとなる場所である。

2-2 都市とストレス

職場や学校、家庭、近所づきあいによるストレスを近年よく耳にするようになった。都市においてうつ病や不安障害のリスクの上昇や統合失調症の疾患率が多いことがわかっている。

2-3 二地域居住のメリット・デメリット

二地域居住とは都市に住む人が週末や一年の一定期間を農山漁村で暮らし、複数のコミュニティを持つライフスタイルである。

メリットとして都市の収入力を維持したまま田舎に住居することや、都会と田舎の両方の良さが楽しめることである。しかし、家賃が二箇所かかることや家のメンテナンス、移動時間の労力がデメリットとして挙げられる。

2-4 南房総市

南房総市は平成18年に6つの町による配置分合により誕生した市である。そのため旧町村単位で保有していた公共施設の重複が残っており、平成28年3月時点において公

共建築の市民一人当たりの延べ床面積が $5.78m^2$ と全国平均の1.8倍であった[1]。また、1997年にアクアラインが開通したことにより、東京から南房総市まで車で90分とアクセスの良い田舎となった。図1は二次的住宅の多い地域を表している。複数のコミュニティを持つ暮らし方を考える上で容易に通うことのできる場所である必要がある。図1より南房総市は二次的住宅が多いことから通うことのできる場所として捉えることができる。

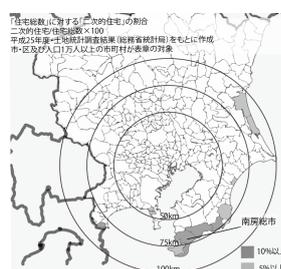


図1 二次的住宅が多い地域 [2]

3. 設計提案

3-1 用途

都市から通うことのできる新たな距離、地域のサードプレイスとして南房総市から生まれる資源を利用し、アートと食を通じたコミュニティ施設を生み出す。

3-2 可能性

南房総市は、現時点でも都市部からサーフィンや釣り、ロードサイクリングなど趣味で通う人がいる。それぞれ南房総の豊かな自然や資源を持ち寄り、自分が持っている楽しみ方をみんなで分け合うことで多様な楽しみ方とサードプレイスとしての生活のアンカーとなる場所を地方に持つ。

3-3 利用形態

南房総市からとれるジビエ、野菜、魚介をベースにしたクッキングスタジオやBBQ、囲炉裏を囲んだ食事、また、レザーやツノ、木材、漂流物などを使ったアート作品を作るためのアトリエを設ける。南房総市の資源を活用しながらものを生み出し、コミュニティを求める人が集まる。その中に、展示会やBBQなどのイベントを設けることで自分と異なった「こと」で南房総を楽しむ人と交流を生む。温浴施設とゆっくりできる仮眠スペース、コワーキングスペースを設けることで気楽に立ち寄れる場所とした。

4. 敷地調査

敷地は旧平群小学校(H24閉校)・旧平群幼稚園 (H24閉園)・旧平群保育所(H29閉園)とした。校舎が校庭を囲む形で建っており、隣接する平群天神社の参道は学校群の後ろに見える伊予ヶ岳の登山道に続いている。(図2)

敷地面積：1614m²

所在地：千葉県南房総市平群中220 (図3)

前用途：小学校、幼稚園、保育所



図2 既存廃校群 鳥瞰写真



図3 敷地案内図

3. 設計手法

まず、コミュニティ形成の上で人々が不快に思わない空間アプローチとして図4をイメージモデルとし、素材・視線・中性的な空間をすることで人と人の距離感を操作する。

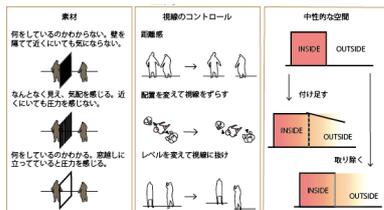


図4 空間のアプローチ

図4を廃校群に落とし込む為、図5のようにもともと教室がまっすぐに並んでいるものにサイズと配置に遊びを入れ、目的空間を配置する。



図5 サイズと配置

次に目的空間を入れる際、図6のように3パターンの南房総市での資源を活用した動線をメインにし、それに加えシェアするスペース、イベント的に使うスペースを設けた。

1つ目のパターンには狩猟後の加工、活用の動線として狩猟加工施設、レザークラフト等アトリエ、ジビエ料理のクッキングスタジオ、レストランを配置した。2つ目の動線にはクリエイターが南房総でとれた木材や漂流物を使い、ものづくりを楽しむアトリエや展示スペースを、3つ目の動線として農家や釣りをする人が料理教室を開けるクックスタジオやみんなでシェアする畑、囲炉裏を当てはめた。

それに加え、利用者がシェアするスペースとして大浴場、睡眠・リラクセススペースとイベント的に使うス

ースを入れ込むことで普段の動線が画一的にならず、多目的に集まる人々が交わり、交流できる設計とした。

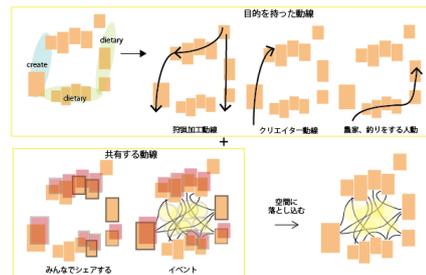


図6 動線計画

この中で中心となる広場に下図7のイメージモデルのようにイベントというソフト面を入れることにより、混ざり合う動線を落とし込んだ。

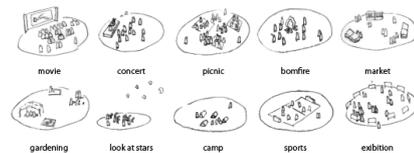


図7 ソフト面イメージモデル

そして図4を具現化するにあたり木材で作ったルーバー、デッキを隙間や前、横に半屋外空間や置くことで視線を操作し、空間モデルとして落とし込んだ。また、これにより、今まで別々の用途で使われてきた建物群に一つの回遊性と木を使った一体感と連続性をつくりだした。(図8)



図8 建物外観 模型写真

4. おわりに

仕事や家庭での人間関係のストレスが問題となっている現在フラットな人間関係を持てるサードプレイスとなる場所は重要である。それは都心の居酒屋やカフェにとどまらず日頃より立ち寄りたいたいと思える場所であると同時に幅広い人と交わることができる必要性がある。

参考文献

- [1] 千葉県南房総市(2016), 「南房総市公共施設等総合管理計画」, <http://www.city.minamiboso.chiba.jp/cmfiles/contents/0000007/7902/koukyousisetu.pdf> (2019年1月27日参照)
- [2] 河内建・森永良丙・中嶋美一(2017), 「南房総市における二地域居住を促す滞在拠点に関する研究」, http://www.jstage.jst.go.jp/article/aijt/23/53/23_235/_pdf/-char/ja (2019年1月27日参照)